

学校におけるガイドライン作成等

都道府県	熊本県	学校名等	熊本市立江南中学校
名称	ネット利用に関する「江南ルール」の取り組み		
目標(狙い)	ネット社会を生き抜く子どもたちを育てる。		
<p>(具体的な取組等の内容)</p> <p>① ルール作りの端緒</p> <p>生徒がコミュニケーションアプリ上のトラブルを2年生の学年主任の高木雅子教諭に相談したことをきっかけに、2年生の学級担任が話し合って、全クラスで「情報モラル」学習を実施。その後、高木教諭が生徒たちに江南のルールを作ろうと思うけれど、と相談。そこから「江南ルール」作りがスタート。「実行委員」が中心になって、各クラスから出された意見を統合したりカテゴライズしたりするなど、生徒たちが自ら考え、話し合い、一から原案を作成。本年3月の「江南立志の日」という学年行事の中で「江南ルール」を発表し、保護者にもアピールした。(この時点では未だ当時の2年生だけのルール)</p> <p>② 「江南ルール」の広がり(学年から学校全体、そしてフォーラムへ)</p> <p>ルールを作った生徒が3年生となった4月から、「実行委員」を「推進委員」に名称を変更(江南ルールを育てることに目的を変更したため)し、生徒議会に全校生徒での「江南ルール」採択を提案。しかし、辞書やアラーム機能を使いたいので10時以降さわらないは困るなどの意見が出され、生徒議会での議決は難航し、推進委員は悩みを抱える。そんな中、e-ネット安心講座を全校生徒、および保護者も交えて受講したのを契機に、「情報モラル」への認識も高まり、再度、生徒議会で議論を重ね、今回も生徒たちの力で「新江南ルール」を学校のルールとして採択した。その過程を7/25「青少年の「ネットルール」を考えるフォーラム in 熊本」(九州総通局と安心協の共催イベント)において多くの参加者に発表した。</p> <p>③ 成果と課題(フォーラム発表の中から)</p> <p>3年生のアンケート結果からは、「江南ルール」により心が傷つく書き込みや学校での悪口が減ったなどの成果が明らかになる一方、10時以降はさわらないが完全に守られていない、1,2年生があまり守っていないなど、運用面や下級生へ伝える難しさなどの課題も浮き彫りとなった。発表の最後に生徒たちは、「中学生のうちにこれからの情報社会について本気で考え、取り組む事もできたのはとても貴重な体験だった。これからの情報社会との関わり方にも活かしていきたい」と、力強く締めくくった。</p> <p>高木教諭は、「ルールづくりは、生徒と共に考える(協同)ことや、話し合いができるスキル、表現できる場をつくるなどの「土壌」づくりなどが重要。ルールを作ってもトラブルをなくすことはできないかもしれないが、ルールについて考えることでそれを乗り越える力を持つことが出来る」と述べている。</p>			

写真・図表等

2014/07/15 学校採択された 「新 江南ルール」

江南中学校生徒会
「江南ルール」推進委員会

「江南ルール」

情報社会において「大切な人」を傷つけてしまった時
あなたは責任を負えますか？

ルール1 健康を守ろう

- ① 10時以降は、情報通信をしない
- ② 寝るときは、極力電源を切って、返信や投稿をしない

ルール2 友情を守ろう

- ① 見た人が傷ついたり不愉快に感じたりする言葉は使わない
- ② 悪意のあるグループを作らない・入らない
- ③ 相手の身になって考える

ルール3 プライバシーを守ろう

- ① 個人情報やネットに載せない。(画像・氏名など)
- ② 誰にでも見せられる情報・言葉しか書き込まない
- ③ 知らない人からの書きこみは無視する



「フォーラムで「江南ルール」の取組を発表する推進委員」

都道府県	大阪府	学校名等	羽衣学園中学校・高等学校
名称	生徒を中心とした検討チームによるソーシャルメディアガイドライン作成		
目標(狙い)	①学校-生徒が一体となった検討チームを立ち上げる。 ②運用にあたっては、学校-生徒-保護者が一体となった実効性のあるルール作りを行う。		

(具体的な取組等の内容)

【概要】

中高生におけるソーシャルメディアの利用が拡大に伴い、ソーシャルメディア利用に伴うトラブルが高校以下の低年齢層に拡大している状況にある。

ソーシャルメディアの利用は、常に教師よりも生徒側が先行するだけに、生徒指導が重要となり、教師がソーシャルメディアを利用するかどうか、詳しいかどうかに関係なく、生徒に対して、教職員全員でガイドラインに沿った注意喚起を行う必要があるため、当学園においても、適切なネット利用、また、生徒の健全育成の側面からも、ソーシャルメディアガイドラインを策定していくこととした。

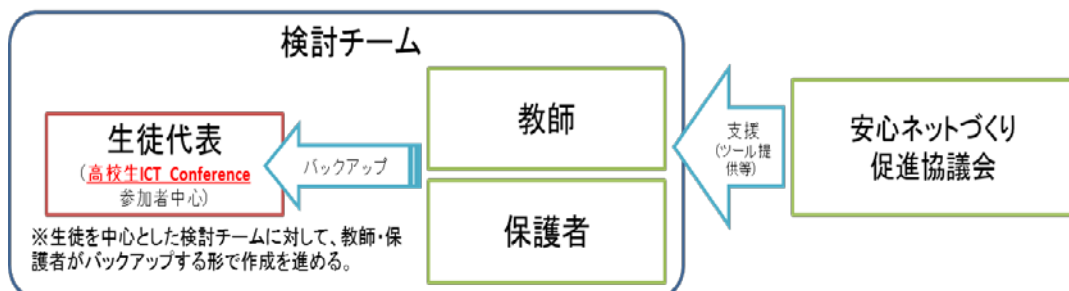
なお、策定にあたっては、安心ネットづくり促進協議会ホームページで紹介されているガイドライン策定にあたっての、手引き、作成事例も参考とした。

【実施時期等】

- ・ 平成 25 年 12 月～平成 26 年 7 月

	12月	2月	4月	5月	7月
検討チーム編成	チームメンバー選定	チーム編成			
ガイドライン作成検討		第1回会合 (スケジュール共有等)	第2回会合 (一次案策定) 第3回会合 (二次案策定)	第4回会合 (最終)	
実施ルール検討			第2回会合 (実施ルール・運用体制検討)		
展開			保護者新入生説明会		学内リリース

【参加者等】



【主な検討事項】

- ・ ソーシャルメディアガイドライン普及促進の目的の明確化
- ・ 取組の方向性とスケジュール
- ・ 検討体制
- ・ 掲載事項
- ・ 運用体制の検討
- ・ 効果確認方法

【結果（参加者の感想等）】

高校生になって、皆さんには楽しみがたくさんあると思います。また、行動範囲も中学より広がり、携帯電話やスマートフォン、パソコンなどのインターネットの利用も増えることと思います。楽しく大切な高校生活を、無駄にせず、後で後悔しないためにも、ここでは、インターネット利用について、特に注意して欲しいと考えました。

結果 下記の6つが特にポイントであると考えました。

- 1 インターネットは世界に広がる可能性がある！！
- 2 インターネットで発信した情報は消えない！！
- 3 個人情報は公開しない！！
- 4 責任をもって使おう！！
- 5 ゲーム、インターネットサーフィン（動画）、SNS に依存しない！！
- 6 セキュリティにも注意しよう！！

まとめ

ソーシャルメディアを使うなら、発信者としての自覚と責任を持ち、法令・規範を守りましょう。

これからのネット社会をつくるために

羽衣学園高等学校 3年 永富亜衣さん

（「高校生 ICT Conference 2013 in 大阪」に参加し、高校生 ICT Conference2013 サミットおよび内閣府報告会にも参加）。

「高校生 ICT」は、現代のネット社会について私たち高校生が議論を重ね、より良いネット社会を築くための提案をするものです。毎回、google、DeNA、LINE などの企業の方々が来場して、講義をしてくださいました。その後に、私たち高校生が各グループに分かれて意見を出し合い、一つのプレゼンテーションを作り、発表し合いました。

私は、高校生熟議に参加するのは二回目でした。前は、ネット社会の危険性を実感しました。それとともにその危険性を知ることによって快適にインターネットを利用できるということも学びました。今回も参加して、ネット社会が急激に発展し続けているということを実感しました。話した内容も前回とは違うことばかりでした。今回のテーマは“モラル”でした。インターネットのトラブルが増えている原因として悪質なものがたくさん

ありますが、それら避けるために最良な方法は、利用者である私たちが、ネット社会を理解するという事です。最近のネット使用者はマナーに欠けた行動が多々あるように思われます。また、しなければならないことを実行しない人たちも多いように思います。例えば、インターネットの巨大さに気づかず軽率な行動をとってしまう、アプリをインストールする際に出てくる利用規約を読まないなどです。これらは私たちが日常から危機感を持っていないから生じてくる問題です。私たちはこのような問題を解決するために、「誰に」「何を」「どのように伝えるか」ということに気をつけて考えました。そして、それぞれの意見をポストイットに書いて大きな模造紙に貼って意見を整理しました。「誰に」という面では、「これからスマートフォンを利用する人たちに」「現在利用する人たちに」「ネットを提供している人たちに」が主です。「何を」では、「インターネットの危険性について理解する」「常日頃から危機感を持つ」「利用規約を持つ」などの意見が出ました。最後に、「どのように」は、「広告を利用する」「ネットの危険を体験できる疑似体験アプリを作る」「掲示板を作る」などのアイデアが出ました。この「どのように」が一番力に入るトピックでもありました。広告一つにしても、どのように広告を利用するかなどたくさんの意見が出ました。CMを流す、アプリを利用している際に上や下に出てくる広告を利用する、電車の広告を使うなど様々な意見が出ました。これらの意見もポストイットに書いて分類して模造紙に貼っていきました。最後にその模造紙を参考にパワーポイントにまとめて、約5分のプレゼンテーションを完成させました。プレゼンテーションでは、全員が意見を述べるように気をつけました。私のグループは「危機感を持つ」ということについて考えましたが、「インターネットの依存」「インターネットでのいじめ」などを発表しているグループもありました。各グループのプレゼンテーションを見ることによって、自分のグループになかった考え方などを知ることができ、より理解を深めることができます。

スマートフォンが普及すればするほどインターネットも発達していきます。インターネットが快適になっていく裏でトラブルの数も増えていきます。私たち利用者は、インターネットを使う際に危険性についても必ず考えなければなりません。インターネットは便利なものですが一歩使い道を間違えることによって、取り返しのつかないものにも成りえます。そのことをしっかり理解し、常に危機感を持っていれば、私たちはインターネットをより安全に、より快適に利用することができます。高校生である私たちが意見を出し合い、学び合うことが、これからのネット社会を作るうえで大切なことだと思います。その一歩として参加メンバーで相談して学校に戻り本校のソーシャルメディアガイドラインを作ろうということになりました。

このガイドラインは、一人だけが守ってもみんなの安全は保てません。羽衣学園の生徒および関係者全員が、この内容に準じた利用を心がけて欲しいとおもっています。

【本授業を実施する際の留意点】

羽衣学園高校3年生 5名にインタビューしました。

(寺岡奈々子・田中瑠美子・森穂乃香・細井優香・林姫穂)

■ICTカンファレンスからソーシャルメディアガイドライン作成活動に参加してみて、よかったことを教えてください。

林さん：いろいろな人の意見を聞いて、視野が広がることです。また、専門家の人の話が聞けるのもすごくいい経験です。自分達が「こうすればいい」と思ったことでも、専門家の意見を聞くと法律的にダメだったり、技術的に無理だったりすることがわかり、それもまた勉強になります。

細井さん：ふだん考えないことを真剣に考える機会になることです。学校の仲間だとダレて話せなかったりすることでも、「熟議」の場では、初対面の人だからこそ真剣に話し合えるのもいい経験になると思います。

森さん：スマホに換えてまだ3か月なので、専門的なことも含めていろいろな使い方が聞けてよかったと思います。友達同士で話しているだけでは、便利なことはわかっても危険があることまではわかりません。頑張ってしゃべることで、いろんなことが学べるのが熟議のいいところだと思います。

田中さん：身近ではない人だから話し合えることがあると思います。このあいだ隠岐(島根県)の高校生と熟議をした時は、スマホの使い方が私達とは違うのでびっくりしました。隠岐にはコンビニがないので、買い物はネットショッピングをふつうにするのだそうです。そんな話を聞けるのも、熟議のすごいところだと思います。

寺岡さん：学校の授業では、このようなプレゼンをすることはありませんが、ボランティア部の活動で海外の子と会うと、同じ年なのにプレゼンがすごいんです！そういうのを見ていると、とても刺激になりますね。熟議では、話し合うこととプレゼンすることの両方ができるので、勉強になります。

■学校の授業でこのような取組を入れるとしたら、どういう形でするのがいいと思いますか。

寺岡さん：いろいろな学校から来て行う熟議は、意識の高い子が多いのでやりやすいと思います。学校の授業で、いつも顔を合わせている子同士でやると、発言する子とそうでない子がどうしても決まってしまうので、よくないと思います。テーマは、いろんな意見が出やすいもの、例えば「電車の中でパンとか食べることをどう思うか」などにして、ふだんの授業ではなく、イベント的にやるのがいいかと思います。

森さん：みんなは知らない子同士の方がいいと言うけど、私は知っている同士の方が話しやすいですね。でも、1グループは6人くらいにして、ふだん発言しづらい子に対しても、まわりの方が意見を聞いてあげるようにするのがいいと思います。

田中さん：私も6人くらいがちょうどいいと思います。発言する子・しない子に分けるのではなく、みんなが平等に話すルールを作ってあげるのがいいと思います。

林さん：クラスでやるなら、全員でやるのは絶対ダメで、グループに分かれてやるのがいいと思います。1グループは今日の8人くらいがいいかな。ポストイットに書いて貼るのは、自分の意見を形にして残すことにもなるし、書いた意見を読むことで必ず発言することになるので、とても大事だと思います。

c f デジタルアーツ(株)さんと協力して「スマホにひそむ危険疑似体験アプリ」の作成にも関わりました。

写真・図表等



都道府県	東京都	学校名等	自由学園 男子部（中・高一貫）
名称	対話で解決「学生寮でのルールづくり」		
目標(狙い)	学生寮において、生徒自身がルールをつくりどう守らせるかを目的とし、生徒自身が自ら考え、行動する力を育む。		
<p>(具体的な取組等の内容)</p> <p>【概要】</p> <p>自由学園では、自治を重んじており、毎年、生徒自身で寮生活でのルールを作りを行っている。</p> <p>自由学園男子部・学生寮においては、中高生約120名（生徒の7割）が生活をしており、自主ルールで就寝時間後のネット接続などは禁止していたが、数年前から動画サイト、ゲーム、SNS等に夢中になり、就寝時間後もネットを見たりメールのやりとりを続ける生徒が出てきた。</p> <p>このためルール違反を注意することを担当している持ち物係（5名）が中心となり、ルールを守れていない生徒と繰り返し面談を行い、なぜ、ルールを作ったかを説明し、対話を重ねて一緒に問題解決を図るもの。</p> <p>生徒自身が「どうすべきか自分で考え、行動する力」を育む取組。</p> <p>【実施時期】</p> <p>平成26年4月</p> <p>【取組が目指すもの】</p> <p>民主社会を理解するために、話し合いにより課題を解決していく取組として、ひとつのルールをつくることにより、そのルールにより目指しているものを生徒に理解させていく。</p> <p>最初のうちは、ルールの意義が分からず、ルールを守らない生徒もいたが、そのような生徒に対しては、持ち物係の生徒が繰り返し、場合によっては20回にも及ぶ対話を行い、何故そのルールが必要なのかの理解を得るようにしていった。これにより、当初はルールを守ることができていなかった生徒もルールの意義を理解し、ルールに納得したことによって、ルールを守ろうという意識となる。</p> <p>大切なのは対話を中心として、考え決定していくこと。</p>			

【ルール】

2014 年度寮での持ち物について

持ち込み可能物

- ・本、雑誌
- ・玩具（寮で使う常識範囲内のもの）
- ・ノートパソコン（高等科のみ）
- ・DVD プレーヤー
- ・音楽、多機能プレーヤー

禁則事項

- ・新入生の電化製品、マネーカード(テレフォンカードを除く)、自転車の持ち込み
- ・平日のレンタル DVD の視聴
- ・集中勉強中、就寝後の音楽再生以外の電子機器でのすべての行為
- ・19 時以降のスピーカーやアンプなど音量増幅機器の使用
- ・持ち込み禁止物の持ち込み
 - ・麻雀、花札
 - ・ポケット Wi-Fi
 - ・漫画
 - ・デスクトップパソコン
 - ・トレーディングカードゲーム
 - ・ゲーム機
 - ・危険物

その他

- ・電子機器類や貴重品は希望すれば寮長室に預けられる
- ・電子機器類は必ず防犯登録をする。もし無登録の物の使用が発覚したら持ち物の係りとの面談の上、強制的に登録する。
- ・無登録の電子機器がなくなった場合、持ち物の係は一切の対応をしない。
- ・財布や電子機器が放置されていた場合 6 年生が回収し寮長室で一時保管する
- ・法律上違法とされている行為をすべて禁ずる

禁則事項違反者への対応

違反者を発見、確認した 6 年生が持ち物の係に報告し

以下の罰則を原則として与える。

- 1 回目 持ち物の係と面談
- 2 回目 持ち物の係と面談し、期間を決めたうえで寮長室へ預ける
- 3 回目 教師と持ち物の係と面談し、所持しているすべての電子機器を没収する

上記のルールはすべて随時更新していく

持ち物の係とルールに対し意見、疑問、質問がある場合は直接持ち物の係まで

【その他】

以前は、ルール違反を見つけると、その場で携帯や機器を没収していた。今回はすぐに物を取り上げるのではなく、まずは面談を実施し 3 回目の違反で没収。

また、保護者会では、「スマホや携帯のネット利用は難しい。本当に必要なのか親子で話し合ってください」と呼びかけている。